



在宅総合支援センターだより

在宅医療・介護連携推進事業



令和元年11月4日(月・振休)住民公開講座を開催しました



基調講演

遠賀中間地域 在宅医療介護連携推進事業 住民公開講座

訪問診療 ～自宅にいたいという希望を叶えるために～

○基調講演

「住み慣れた家で安心して療養するために」
～最期まで過ごせる地域づくり～

講師：医療法人 白髭内科医院 院長 白髭 豊 氏

○パネルディスカッション

「遠賀中間地域における訪問診療の『いま』と『これから』」

座 長：遠賀中間医師会病院 統括院長 杉町 圭蔵 氏

パネリスト：医療法人 白髭内科医院 院長 白髭 豊 氏

遠賀中間医師会病院 統括副院長 末廣 剛敏 氏

葉医院 院長 葉 倫建 氏

楠本内科医院 院長 楠本 拓生 氏



パネルディスカッション

今年度の住民公開講座は「訪問診療」をテーマに行いました。地域住民の方をはじめ、医療機関関係者や介護サービス関係者、行政機関などの方々も多数ご参加いただきました。

基調講演では、長崎在宅Dr.ネットの事務局長で在宅医療システムを構築した第一人者である白髭内科医院 院長 白髭 豊 氏をお招きして、「住み慣れた家で安心して療養するために」～最期まで過ごせる地域づくり～をテーマに、現代社会における在宅医療の現状と課題、人生の最終段階をどのように迎えるのかを考えるACP(アドバンス・ケア・プランニング)の必要性やリビングウィルなどについて詳しくお話がありました。

また、遠賀中間地域において訪問診療に携わっておられる医師の方々をお招きして、それぞれの取り組みや特色などについての講演を行っていただきました。

パネルディスカッションでは、「遠賀中間地域における訪問診療の『いま』と『これから』」をテーマに、現状の報告や今後における課題などが議論され大変貴重な機会となりました。

会場外には各市・町からの情報コーナー、もの忘れ度チェックお試しコーナー、一般財団法人日本尊厳死協会コーナー、在宅医療相談コーナー、宗像・遠賀保健福祉環境事務所による「ひさやま元気予報」体験コーナー、在宅用人工呼吸器・在宅用酸素濃縮装置展示コーナーを設け、来場された方々は関心深く立ち寄りされていました。

終了後のアンケートからは、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)について難しさを感じるものの家族で話し合いたい、施設の介護職や医療職の方々から自分たちの役割を再認識した、病院がいいのかわ在宅医療がいいのか考えてみたいなどのご意見をいただきました。全体を通して自分たちのこととして身近に感じられる機会になったようで、多くのご意見や感想をいただきました。



パネルディスカッション



会場の様子

特集コーナー

今回は「福岡県宗像・遠賀保健福祉環境事務所」の取り組みについてご紹介いたします。

福岡県宗像・遠賀保健福祉環境事務所

福岡県宗像・遠賀保健福祉環境事務所の取り組み

宗像・遠賀保健福祉環境事務所では、パーキンソン病や潰瘍性大腸炎・全身性エリテマトーデス等の指定難病333疾患の医療費助成の申請受付を行っています。難病の方やその家族から相談を受け、医療や福祉制度について説明したり、神経難病の方に保健師が家庭訪問を行っています。また、難病の方や家族を対象に病気や療養上のことについて講演会を開催したり、難病の方の支援をしているケアマネージャー等の専門職を対象に難病従事者研修会を開催しています。

講演会

平成30年度はパーキンソン病の方・家族を対象に宗像水光会総合病院理学療法士の藤田貴士氏に「パーキンソン病自宅で出来るリハビリテーション」と題し、講演と演習を実施してもらいました。申し込みが多く急遽2回に分けて宗像と遠賀で開催しました。令和元年度は膠原病の方を対象に産業医科大学病院膠原病リウマチ内科の宮崎佑介先生を講師に迎え「膠原病とは～特に全身性エリテマトーデス・強皮症について～」の講演会を開催し、71名参加されました。質問に答えながら丁寧に病気や最新の治療法や近い将来使えるであろう薬の話がありました。研修会終了後のアンケートでは、病気のことや新薬・有効と思われる薬について良く理解できたとの声が多く聞かれました。

難病従事者研修

パーキンソン病の方の多くが介護保険サービスを利用しています。平成31年1月はケアマネージャーや介護職を対象に、パーキンソン病の特徴や日常生活でのリハビリテーションをテーマに研修を行いました。参加者より「日常生活の活動こそがリハビリになる。」「日常生活にリハビリの動きを取り入れることを利用者にアドバイスしていきたい。」などの声が寄せられました。令和元年12月12日に産業医科大学病院 魚住武則先生より「神経難病患者のケア」、難病診療連携コーディネーター原田氏より「難病の保健・医療・福祉制度」についてケアマネージャーや訪問看護師を対象に研修を行い64名参加されました。



魚住武則先生によるお話し



難病診療連携コーディネーター原田氏によるお話し

高齢者施設等への看取り出前講座を行いました

高齢者施設等での看取りの希望は、今後さらに増えることが予測されます。当センターでは施設の体制整備に役立てていただくことを目的として出前講座を行っています。

事前アンケートを行い、各施設の状況やニーズを把握のうえ、研修を希望された7つの施設へ出前講座を行いました。

講師として、遠賀中間医師会おんが病院 統括副院長 末廣 剛敏 医師、在宅総合支援センターの看護師が各施設にお伺いして、「施設で看取るということ」をテーマとした講義を行いました。



ほのぼの



オアシスの会



あすなる岡垣



コピータ中間



びあ



にじの郷



ガーデンヒルズ

7施設(特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、グループホーム、デイサービス)に実施いたしました。医師、看護師、リハビリ職、管理栄養士、ケアマネジャー、介護福祉士、ヘルパー、相談員、事務職などの、10代から70代と幅広い年齢の方々が合計143名参加されています。

研修後のアンケートから、「今の看取りの現状を知る事ができた」「多職種との連携の大切さと、本人の希望を叶えることが出来るという事がわかった」「本人やご家族の思いを達成させるためであれば最大限努力していきたい」等の声が聞かれています。

在宅医療に関する医療機器整備(無料貸出)

当センターでは、在宅医療に使用する医療機器、研修用シミュレータを医療機関及びサービス事業所に無料貸し出しを行っています。借用の手続きや貸出物品などの詳細は在宅総合支援センターのホームページをご覧ください。

<医療機器貸出物品>

- ポータブル吸引器
- ポータブル吸入・吸引両用器
- 点滴スタンド
- 自然落下式輸液ポンプ
- PCAポンプ
- カフティポンプ
- カフ圧計
- 血液ガス分析器(携帯用)
- もの忘れ相談プログラムなど



“出前講座”を行っています

地域の公民館や地域交流センターなどへ在宅総合支援センターの職員がお伺いして、「在宅医療について」の出前講座を行っています。



岡垣町 いこいの里にて

- 参加者：67名
- 年齢：40～80歳代

印象深かった内容

- ・在宅医療について
- ・在宅看取りについて



中間市 中鶴3区にて

- 参加者：29名
- 年齢：70～80歳代

印象深かった内容

- ・在宅医療とは
- ・在宅医療でできること

医療・介護関係者の研修を行いました

- 8月9日(金) 遠賀中間地域 多職種研修会
19時～ 医師会館多目的ホールにて
講演：「判断力が低下した方の権利擁護について」
講師：北九州成年後見センター 篠原 博幸氏
参加者：107名
- 8月22日(木) 遠賀中間地域 多職種連携事例検討会
19時～ 医師会館多目的ホールにて
テーマ：「ターミナル期のご利用者との関わりについて」
参加者：59名
- 10月24日(木) 遠賀中間地域 多職種研修会
19時～ 医師会館多目的ホールにて
講演：「クレーム対応・リスクマネジメントについて」
講師：SOMPOリスクマネジメント株式会社 橋本 勝氏
参加者：107名

今後の予定

遠賀中間地域医療・介護関係者研修会 講演会・『ピア』映画上映

【日時】令和2年1月18日(土)10時～13時

【内容】①講演
訪問診療についてみんなで考える
②映画上映
「ピア」～まちをつなぐもの～

【講師】遠賀中間医師会病院
統括副院長 末廣 剛敏氏

【場所】遠賀町中央公民館 大ホール
遠賀郡遠賀町大字今古賀5 1 3

【対象者】医師、歯科医師、薬剤師、看護師、
MSW・退院調整者、介護支援専門員、
介護職、リハビリ職 等

【定員】150名
(定員になり次第締め切りとなります)



在宅医療に関する相談窓口について

在宅総合支援センターには在宅医療・介護に関する相談窓口があります。お電話でのご相談も行っています。
専門のスタッフがおりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

在宅医療相談窓口

受付時間 月～金曜日
9時～16時

電話 093-281-3100

FAX 093-281-3105



発行 遠賀中間医師会 在宅総合支援センター

〒811-4342 遠賀郡遠賀町大字尾崎1725番地2
TEL 093-281-3100 FAX 093-281-3105
URL : <http://www.onnaka-med.or.jp/zaitaku/>